

内閣府は、平成28年度日本・韓国青年親善交流事業（第30回）による韓国青年代表団の招へいを、平成28年7月20日から8月3日までの15日間の日程で実施した。

代表団は、女性家族部性別影響評価課事務官の金玄源（キム・ヒョンウォン）団長を始め、副団長、通訳及び団員の合計30名で構成された。

各地における活動の概要は、以下のとおりである。

東京プログラム（7月20日～24日）

7月20日11時10分、成田国際空港に到着した韓国青年代表団は、内閣府にて滞在日程や事業概要についてのオリエンテーションを受け、事業全般に対する理解を深めた。

7月21日午前、一行は東京臨海広域防災公園の防災体験学習施設を訪問した。災害発生時のオペレーションルームや防災体験ゾーンの見学を始め、身近な物品を用いて非常用防災グッズを作成する方法を学び、知識を深めながら、日本の防災に対する意識の高さについて理解を深めた。

午後は、江戸東京博物館を訪問し、ボランティアガイドの案内のもと、江戸文化の成り立ちや当時の社会背景等を学んだ。

18時10分から、団長・副団長・通訳1名及び青年代表1名は、西崎文平内閣府政策統括官（共生社会政策担当）への表敬訪問を行った。

その後、18時30分から都市センターホテルにて、西崎文平内閣府政策統括官（共生社会政策担当）主催の歓迎会が開催された。内閣府幹部を始め、青少年団体関係者、青年国際交流事業既参加者等多くの出席者を前に、韓国青年は文化紹介として扇の舞やダンス等を披露し、盛況であった。

7月22日午前、一行は裏千家東京道場を訪問した。伝統的な日本庭園を見学した後、茶道体験を行い、茶道の礼節と日本人のおもてなしの心に対する理解を深めた。韓国青年からは、「日本の茶道の美を知ることができて良かった」「日本人がお客をもてなす方法を学ぶことができて良かった」等の感想があった。

午後、JICA地球ひろばを訪問した一行は、青年海外協力隊経験者の体験談を交えたワークショップを通じ、世界の教育事情を学びながら幸福とは何かを考える機会となった。



西崎文平内閣府政策統括官と懇談する（歓迎会）



茶室で記念撮影する（裏千家東京道場）

日韓青年親善交流のつどい(7月24日～26日)

7月24日から26日まで、茨城県守谷市にあるデュプレックスセミナーホテルで日韓青年親善交流のつどいを開催した。

これは日韓両国の青年が一堂に会し、寝食を共にすることにより、互いの文化や考え方を理解することを目的としているプログラムであり、韓国青年代表団のほか、内閣府青年国際交流事業既参加青年及び一般参加青年からなる日本青年と、日韓青年親善交流のつどい実行委員を合わせて約80名が参加した。

今年度は「ともにWA」というテーマを設定した。WAには輪、和、笑などの様々な意味があり、日韓の交流の輪を広げつつ参加者自身で自分なりのWAを見つけてほしいという思いが込められている。

主となるプログラムは、ディスカッションや日韓文化交流の夕べ、日韓文化体験祭り等で構成した。

ディスカッションでは、韓国青年から希望があった「政治・経済」、「教育」、「社会」、「文化1(学校生

活)」、「文化2(家族)」の五つのテーマで意見交換した。日韓両国の青年は、それぞれのグループで青年が果たす役割等を意見交換し、有意義な時間となった。

日韓文化交流の夕べでは、日韓両国の青年が伝統舞踊や楽器演奏、ダンスパフォーマンスなどを披露した。日本参加青年の中には、初めて韓国の伝統文化に触れることができたという声もあり、大変貴重な文化交流の場となった。

日韓文化体験祭りでは、日本と韓国の伝統遊びを用いし、参加者が自由に体験できる場とした。互いに教え合うことで、楽しみながら文化を理解することができた。

本プログラムの実行委員12名は、5月下旬から準備を開始し、計5回の実行委員会に加えて、係別ミーティングなどを精力的に行った。それぞれの担当はプログラムの企画立案や当日の司会進行を行い、平成28年度日韓青年親善交流のつどいは成功裏に終了した。

目的

日韓青年親善交流のつどいは日本・韓国青年親善交流事業に参加している韓国招へい青年と、内閣府青年国際交流事業既参加青年及び一般参加青年からなる日本青年が一堂に会し、研修施設での生活を共にすることにより、両国青年が相手国に対する相互理解、異文化理解の促進を図り、国際交流活動における感覚を向上させることを目的として実施する。

概要

- | | |
|----------|---|
| (1) 事業名 | 平成28年度日韓青年親善交流のつどい |
| (2) 主催 | 内閣府 |
| (3) 開催期間 | 平成28年7月24日(日)～26日(火) 二泊三日 |
| (4) 開催場所 | デュプレックスセミナーホテル(茨城県守谷市) |
| (5) 参加青年 | 韓国招へい青年 30名
日本参加青年 30名
実行委員 12名(通訳4名含む) |



茨城県にて約80名の日韓青年が交流プログラムを行う

プログラム内容

7月24日 (日)	10:40 11:45 12:15-13:00 13:10-13:25 13:30-13:50 14:00-16:30 17:30-18:45 19:35-21:30	日本青年施設着、館内見学 韓国青年施設着 昼食 開会式 オリエンテーション オープニング・プログラム 夕食パーティー 日韓文化交流の夕べ ・日韓両国青年による文化紹介
7月25日 (月)	9:00-12:00 12:00-13:00 13:00-13:40 14:10-16:00 16:00-17:00 17:40-19:15 19:30-20:05 20:40-21:15	ディスカッション ①政治・経済 ②教育 ③社会 ④文化1(学校生活) ⑤文化2(家族) 昼食 ディスカッション成果発表 日韓文化体験祭り ①カキ氷 ②ヨーヨー釣り ③的屋 ④伝統遊び ⑤伝統武道 ⑥ダンス 共同制作① 夕食(バーベキュー) 共同制作② 閉会式
7月26日 (火)	8:30-10:00 10:25 11:40	クロージング・プログラム 施設発 東京駅着、解散

プログラム詳細

● オープニング・プログラム

最初のプログラムとして初めて出会った青年たちの緊張をほぐし、今後の交流を円滑にするためのレクリエーションを行った。紙に書かれたマスに記入してあるテーマに合う人を探す「人間ビンゴ」、じゃんけんに勝った人の顔にマスキングテープを貼って数を競う「マスキングテープじゃんけん」など言語能力を問わず全員で楽しめる企画となった。



● 日韓文化交流の夕べ

日韓両国青年たちがそれぞれ準備した自国の文化を紹介し合った。青年たちは各自、伝統衣装や文化紹介用の衣装に身を包み、事前に準備したパフォーマンスを行った。

日本青年は、ソーラン節やダンス、歌の紹介のほか、全国から集まっている参加者の特徴をいかし、地元のゆるキャラ紹介などを行った。

韓国青年は、テコンドーや扇の舞、劇、K-POPダンスのほか、歌を披露した。



● ディスカッション

「政治・経済」「教育」「社会」「文化1(学校生活)」「文化2(家族)」の五つのテーマで、グループでディスカッションを行った。

青年たちはそれぞれが関心のある分野で自国の現状を紹介するとともに、共通点や差異を見出しながら積極的に意見交換をした。最後は各グループが話し合った内容を発表し、全員で成果を共有した。



【ディスカッションテーマ】

<政治・経済> 両国の青年起業に対する社会的雰囲気と業種のトレンドなど

<教育> 両国の私教育(塾や習い事等)の実態と問題点及び解決策など

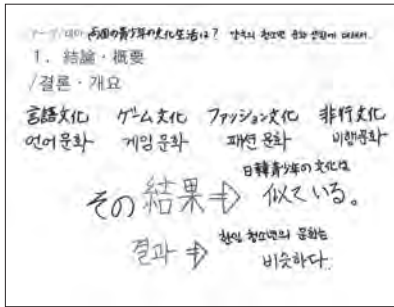
<社会> 各国の青少年の社会的弱者に対する視線など

<文化1(学校生活)> 両国の青少年の文化生活的共通点及び違いなど

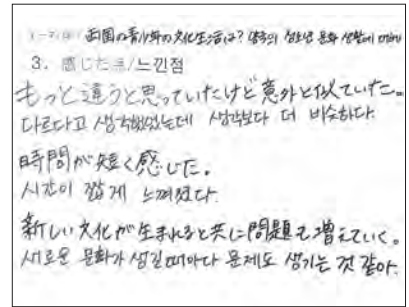
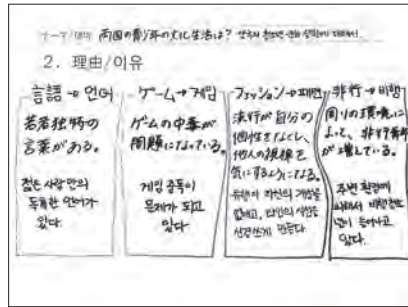
<文化2(家族)> 両国の結婚と出産に対する考えなど



【ディスカッション成果】



文化1(学校生活)より



● 日韓文化体験祭り

夏祭りをテーマに日本と韓国の伝統的な遊びを体験できるブースを用意し、参加者が自由に交流できる場を用意した。二部構成で運営し、第一部では、日本は、ヨーヨー釣り、射的、かき氷、けん玉、あやとり、紙風船を用意した。韓国は、チェギ(蹴鞠)、ペンイ(駒)、クスル(ビー玉)を用意した。第二部では、テコンドー、K-POPダンス、日本舞踊、武道(柔道、剣道)のブースに分かれ、各ブースで指導役の青年が参加者に教えた。K-POPダンスと日本舞踊では、最後に発表の時間を設け、全員の前で成果を発表した。

実際に体験し教え合うことで、相手の国だけでなく、自国の文化への理解も深まる機会となった。



● 共同制作(うちWA作り)

各グループに分かれて、メッセージ入りのうちわを制作した。うちわに入れるメッセージをグループ内で話し合い、飾り付けも自由に行うことでグループの特色を出した。

作成したうちわをグループメンバーで合わせると、「友情の花を咲かせよう」「君と私とみんなのWA」「星のように一緒に輝く」等の一つのメッセージになるよう工夫した。

最後は、うちわに寄せ書きを行い、思い出に残るものとなった。



● 三日間を通して行うプログラム

- ・ペア探し：質問または答えが書いてある紙を一人一枚配布し、日韓青年で質問と答えが一致する「ペア」を探す。ペアには「一緒に写真を撮る」というミッションが与えられ、撮影した写真はフェイスブックのグループページに投稿された。
- ・post it!：壁に参加青年のプロフィールシートを貼り、交流を通して発見したその人の良いところや相手へのメッセージをポストイットに書いて伝え合った。



● クロージング・プログラム

つどいで得た気付きや学び等の感想を一人ずつ発表した。日韓青年で感想を共有したことで、相互理解が深まった。さらに、ペア同士でお菓子の交換を行い、最後の別れの時間を惜しんだ。



日本参加青年名簿

No	名前	出身地	参加事業
1	石田 華奈子	宮城県	一般参加青年
2	石原 さや	岡山県	一般参加青年
3	一杉 優	東京都	一般参加青年
4	伊野 つづみ	茨城県	一般参加青年
5	小田 アリスファハーニ	スリランカ	一般参加青年
6	柏木 紫	茨城県	一般参加青年
7	川島 史奈	栃木県	一般参加青年
8	齊木 京香	神奈川県	一般参加青年
9	齋藤 優依	千葉県	一般参加青年
10	酒井 瞳	愛知県	一般参加青年
11	白石 真由子	長野県	一般参加青年
12	高松 好恵	富山県	一般参加青年
13	田原 萌絵	千葉県	一般参加青年
14	豊田 祥子	群馬県	一般参加青年
15	名嶋 有紗	東京都	一般参加青年
16	馬場 仁美	福岡県	一般参加青年
17	藤本 賀子	東京都	一般参加青年
18	湊本 泰行	兵庫県	一般参加青年
19	安田 優樹	長野県	一般参加青年
20	矢吹 華子	神奈川県	一般参加青年
21	渡辺 はるか	秋田県	一般参加青年
22	渡部 花菜	東京都	一般参加青年
23	篠崎 温子	埼玉県	平成20年度 「東南アジア青年の船」事業
24	萩原 愛子	群馬県	平成26年度 グローバルユースリーダー育成「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」
25	渡辺 千尋	東京都	平成20年度 「東南アジア青年の船」事業
26	畔上 遙	埼玉県	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
27	及川 あかね	宮城県	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
28	中尾 嘉宏	大分県	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
29	村田 来美	京都府	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
30	山口 このみ	宮城県	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業

実行委員名簿

No	名前	担当	参加事業
1	清水佳織	実行委員長 日韓文化交流の夕べ	平成26年度 日本・韓国青年親善交流事業
2	笹原怜奈	副実行委員長 ディスカッション	平成26年度 日本・韓国青年親善交流事業
3	イ サンウォン	副実行委員長 日韓文化体験祭り 通訳	平成23年度 日本・韓国青年親善交流事業(韓国青年招へい)
4	永松 仁	オープニング・プログラム 日韓文化体験祭り	平成13年度 日本・韓国青年親善交流事業
5	小原弘己	ディスカッション 日韓文化体験祭り	平成20年度 日本・韓国青年親善交流事業
6	山口真由子	日韓文化交流の夕べ 共同制作(うちWA作り)	平成26年度 日本・韓国青年親善交流事業
7	引本彩華	オープニング・プログラム 日韓文化体験祭り	平成26年度 国際青年育成交流事業(ラオス派遣団)
8	宮入千尋	日韓文化交流の夕べ 共同制作(うちWA作り)	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
9	宮城和希	オープニング・プログラム 日韓文化交流の夕べ	平成28年度 日本・韓国青年親善交流事業
10	キム ミジ	ディスカッション 日韓文化交流の夕べ 通訳	平成25年度 日本・韓国青年親善交流事業(韓国青年招へい)
11	イ ヘイン	オープニング・プログラム 共同制作(うちWA作り) 通訳	平成25年度 日本・韓国青年親善交流事業(韓国青年招へい)
12	パク ジョンヒョク	日韓文化交流の夕べ ディスカッション 通訳	平成27年度 日韓青年親善交流のつどい実行委員



約2か月間共に協力した12名の実行委員